

めぐみイエス・キリスト教会

2024年7月21日(日)第三主日礼拝

午前10時より

週報「通算第716号」



2024年標題聖句

マタイの福音書第6章33節

《まず神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはすべて、それに加えて与えられます。》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌258「墨よりも黒き心なれど」 p. 402

【交読文】 No.44 詩篇第139篇 p. 913

【賛美Ⅱ】 新聖歌198「God Bless You」 p. 294

【使徒信条】

【主の祈り】

【前回説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナル曲「あなたと共にいつまでも」

【聖書朗読】 ルカの福音書6章12節～16節(新約p. 120)

【礼拝説教】 《十二使徒の召命》

【聖餐式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌165「栄光イエスにあれ」 p. 236

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

※本日の聖書箇所(ルカの福音書6章12節～16節)

6:12 そのころ、イエスは祈るために山に行き、神に祈りながら夜を明かされた。

6:13 そして、夜が明けると弟子たちを呼び寄せ、その中から十二人を選び、彼らに使徒という名をお与えになった。

6:14 すなわち、ペテロという名を与えられたシモンとその兄弟アンデレ、そしてヤコブ、ヨハネ、ピリポ、バルトロマイ、

6:15 マタイ、トマス、アルパヨの子ヤコブ、熱心党员と呼ばれていたシモン、

6:16 ヤコブの子ユダ、イスカリオテのユダで、このユダが裏切

る者となった。

●ポイント1.「マルコの福音書における平行記事」から

※マルコの福音書3章13節～19節「任命の山にて」(新約p.70上段)

3:13 さて、イエスが山に登り、ご自分が望む者たちを呼び寄せられると、彼らはみもとに来た。

3:14 イエスは十二人を任命し、彼らを使徒と呼ばれた。それは、彼らをご自分のそばに置くため、また彼らを遣わして宣教をさせ、

3:15 彼らに悪霊を追い出す権威を持たせるためであった。

3:16 こうしてイエスは十二人を任命された。シモンにはペテロという名をつけ、

3:17 ゼベダイの子ヤコブと、ヤコブの兄弟ヨハネ、この二人にはボアネルゲ、すなわち、雷の子という名をつけられた。

3:18 さらに、アンデレ、ピリポ、バルトロマイ、マタイ、トマス、アルパヨの子ヤコブ、タダイ、熱心党のシモン、

3:19 イスカリオテのユダを任命された。このユダがイエスを裏切ったのである。

●ポイント2.「イスカリオテのユダの裏切りの予告」とは？

※詩篇41篇9節「指揮者の為に、ダビデの賛歌」(旧約p.975上段)

41:9 私が信頼した親しい友が私のパンを食べている者までが私に向かってかかとを上げます。

●ポイント3.「十二使徒と私たちが選ばれた理由」とは？

※ヨハネの福音書15章16節「最後の晩餐にて」(新約p.216下段)

15:16「あなたがたが私を選んだのではなく、私があなたがたを選び、あなたがたを任命しました。それは、あなたがたが行って実を結び、その実が残るようになるため、また、あなたがたが私の名によって父に求めるものをすべて、父が与えて下さるようになるためです。」

◎前回の礼拝メッセージ【愛の人・主イエス】

《別の安息日で、場所は、同じくカペナウムの会堂だと思われます。そこに、右手の萎えた人がいました。この人は、カペナウム在住の者ではなく、パリサイ人たちや律法学者たちが、あえてここに連れて来たとも考えられます。しかも、「律法学者たちやパリサイ人たちは、イエスが安息日に癒やしを行なうかどうか、じっと見つめていた。彼を訴える口実を見つけるためであった。」と、書かれています。

さて、この記事は、共観福音書のすべてに記載されています。マタイの福音書には、主のたとえ話が書き記されています。「あなたがたのうちのだれかが羊を一匹持っていて、もしその羊が安息日に穴に落ちたら、それをつかんで引き上げてやらないでしょうか。人間は羊よりはるかに価値があります。それなら、安息日に良いことをするのは律法にかなっています。」と、主は言われました。

実は、この羊こそ、私たち一人一人を表わしています。私たちは、穴に落ちていたのですが、主が引き上げて下さったのです。主は言われます。「立って、真ん中に出なさい。手を伸ばしなさい。」これは、本人にとっては「見世物」にされることです。また、萎えた手を伸ばすことは、出来ないことなのです。しかし、彼は主イエスの言葉に従い、手を伸ばそうとしました。人々の目は、その手に集中します。

すると、見る見るうちに、右手は左手と同じように元通りになったのです。申命記には、次のように書かれています。『祝福とは、私が今日あなたがたに命じる、あなたがたの神、主の命令に聞き従った場合である。』と。この手の萎えた人は、私たち一人一人をも指しています。主は、私たち一人一人を用いて、ご自身の栄光を現わされることを願っておられます。そして、まだ主を知らない人々が、私たちに起こった奇跡を見て、救い主を信じ救われ、永遠の命を持つようになる為なのです。私たちは常に見られています。》

お知らせ

※次回7月28日(日)第四主日礼拝は通常通り10時から行ないます。